

# 圧送改善材料を発売

## 先行剤 J I S 制定目指す

タケ・サイト(静岡市駿河区、武田雅成社)

らりニューアル製品として発売した。

ファイバー(CNF)などを混ぜ合わせる。



TERA

分できる。

一方、TERAは粉末タイプの改質剤で、打設終了後のホッパー内に散布し、攪拌羽根とSパイプを逆転運転

で約3分練り混ぜるだけで砕石化できる。六価クロムを瞬時に無害

化でき、今年7月に劇物指定されたアルミン酸ナトリウムを取り除

いている。

同社ではRUBURI、TERAとも普及を促すため、国土交通省の新技术活用システム(NE-TIS)を活用している。すでにR

UBURIは登録されたほか、TERAも早期登録を目指し、現在申請を行っている。

また、同社はRUBURIのJIS制定を調査会(JISC)の

目指している。武田社長は「圧送先行剤はRUBURIを含め5製品程度ある。しかし、顧客からはどの製品が良いのかさっぱり分からない」と指摘があり、それが普及の妨げになつていくという。そこで、標準化すること

で、より一般的に普及を図りたい考え。武田社長は「特に民間工事では施主に対して様々な説明責任を伴うが、よく分からない製品の使用を敬遠する傾向がある。しかし、JIS製品であれば使用される可能性が一気に高ま

る」とJIS取得のねらいを説明する。同社では経済産業省の新市場創造型標準化制度を活用し、日本工業標準

調査会(JISC)の審査を省略して、2年程度でJIS制定を目指している。

一方、原案作成委員会は従来のJISと同様に行う必要があるため、日本規格協会および経済産業省が中心となつて、委員の選定を進めている最中だ。社会的影響力が非常に大きい標準化であるため、慎重に委員の選定を行っている。現段階では、委員に学識者として静岡理工科大学の丸田誠教授、静岡県工業技術研究所、静岡県土木部などを予定している。



RUBURI

「TERA」(テラ)の製造、販売を行っている。ともに圧送作業を改善する材料として注目されている。このうちRUBURIは従来技術を改良し、今夏か

RUBURIは圧送作業前に配管内の流動性を良くする先行剤モルタルである。主原料は生コン工場から排出される脱水ケークを同社の特許技術で粒度調整と成分調整を行った多孔質炭酸カルシウムで、そこに各種化学物質やセルロースナノ

ファイバー(CNF)などを混ぜ合わせる。CNFは王子製紙、日本製紙、中越ハルプなど大手製紙メーカーが製造しており、水と混ぜることで、チクソ性のある液体ができる。それらが、各種材料と混ぜ合わさってRUBURI溶液が完成する。

この溶液を、根元ベント管、T字管などから投入し、圧送するだけである。スローに圧送することで薄く均一な潤滑層を形成し、先送りモルタルの役目を果たす。その後、生コンを圧送する際に溶液

が排出され、取り除いた後は通常に圧送することができる。

RUBURIはこれまでペール缶に水を入れて、ハンドミキサーで混ぜて使用していた。しかし、現場で水を入れ、ミキサーで攪拌する手間があり、その点

が不評だった。そこで、プレミックされた材料を減容可能なポリ容器に入れ、現場で揺す

るだけで使用できるように改良したタイプもこのほど発売開始した。混ぜ合わせて圧送した後は現場で通常処

理されている。

同社ではRUBURI、TERAとも普及を促すため、国土交通省の新技术活用システム(NE-TIS)を活用している。すでにR

UBURIは登録されたほか、TERAも早期登録を目指し、現在申請を行っている。

また、同社はRUBURIのJIS制定を調査会(JISC)の

目指している。武田社長は「圧送先行剤はRUBURIを含め5製品程度ある。しかし、顧客からはどの製品が良いのかさっぱり分からない」と指摘があり、それが普及の妨げになつていくという。そこで、標準化すること

で、より一般的に普及を図りたい考え。武田社長は「特に民間工事では施主に対して様々な説明責任を伴うが、よく分からない製品の使用を敬遠する傾向がある。しかし、JIS製品であれば使用される可能性が一気に高ま